（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 7 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立所沢高等学校　定時制課程 ）

目 指 す 学 校 像	多様な生徒一人一人に相応し、社会的自立を促す親身あふれる温かい教育

重　点　目　標	1　授業を大切にし、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる 2　家庭や地域との連携を強め、教育活動を一層充実させる 3　学校行事等の多様な学びの機会を通じて、社会人として自立できる力を育成する

達成度	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （　月　日　現 在 ）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 入学してくる生徒の成育歴は様々であり、異なる背景や学習スタイルを持つ生徒一人一人の学力差が大きい。また、生徒が多様化していることで、異なる学習ニーズが存在している。 【課題】 個々の学力等に応じた個別最適な学びを提供し、特別な支援を必要とする生徒や異なる学習ニーズを持つ生徒に対する適切な支援体制を強化していく必要がある。	主体的に学ぶ生徒の育成	①多様化する教室において、異なるニーズを持つ生徒一人一人の学力や理解度を把握し、目標達成に向けた適切な支援を実施する。 ②教材を多様化し、異なる学習スタイルやニーズに対応することで、すべての生徒が包括的な教育を受けられるようにする。 ③日本語支援員や学習サポーターなど外部人材を積極的に活用する。	①②生徒の授業満足度（昨年度:84%） ①②主体的に授業に取り組む生徒の割合（昨年度:75%） ①②日常的に家庭学習を行う生徒の割合（昨年度:43%） ①②各学期の成績優良者数（昨年度：平均 22%） ③日本語指導の実施状況（昨年度:176 回） ③外部人材の活用（昨年度:日本語支援員、スクールカウンセラー、学習サポーター、地域ボランティア）				
2	【現状】 様々な成育歴を持つ生徒の多様性を尊重したアプローチをすることで、個々のニーズや能力に合わせた支援の必要性が存在している。 【課題】 生徒の抱える課題を適切に把握し、保護者及び地域、外部人材と連携した個別最適な学びを、教育活動全般をとおして推進し、安心安全な学習環境づくりをしていく必要がある。	地域の一員としての教育活動の推進	①生徒の多様なニーズに対応するために、地域のリソースや専門知識を活用する。 ②地域の協力を得て、日本語を母語としない生徒への支援を実施する。 ③中学校や保護者及び地域との情報共有によって、個別のニーズを把握する。	①地域人材の活用状況（昨年度:国際協力機構） ②自己肯定感の高い生徒の割合（昨年度:57%） ③保護者の学校理解度と満足度（昨年度:87%） ②③外部人材や地域機関との連携状況（昨年度:所沢市青少年多文化学びサポート）				
3	【現状】 約８割の生徒が本校に入学して良かったとアンケートに回答しているが、約半数の生徒は今の自分に満足しておらず卒業後の目標も持っていない現状が存在している。 【課題】 卒業後の自分自身を想像できるようにすることで自己効力感を高め、夢や目標を明確にしていく必要がある。	社会を生き抜く力の育成	①生徒の心に寄り添いながら、生徒が目的意識を持って学校生活を送れるように支援する。 ②学期末行事等をとおして、世界で活躍する人の話を聞くなどすることで、目的意識を持った学校生活を送れるように支援する。 ③個々の能力を最大限に引き出し、自己効力感を高めることで、卒業後の目標を持たせる	①心身の悩みに関する相談に満足している生徒の割合（昨年度:76%） ②講演会等での外部講師活用状況（昨年度:13 回） ③卒業後の目標を持っている生徒の割合（昨年度:53%） ③進路決定率の維持（昨年度:79%）				